

熊本を日本一本好きの県に!



本熊本(bon kuma hon) 実行委員会
委員長
荒川 俊介さん



数寄屋丸でのお話会

企画が持ち上がったのは、平成24年10月ごろ。他の地域では行われていた、書店発の本のイベントを熊本でもやろうと、12月から活動を始めました。

「スタンプリーや市民参加の一箱古本市、角田光代さんのトークショーなど、多くの方に来ていただきました。熊本城での読み聞かせでは、郷土の昔話などをやったのですが、雰囲気がいい、と会場いっぱい集まってくれました」。店

PROFILE

岡山県出身。金龍堂まるぶん店長。「本熊本 (bon kuma hon)」の実行委員長として、熊本市の書店員、図書館司書と共に、従来の垣根を越えて「本を盛り上げる」をテーマに熊本発のブックフェスティバルを開催した。ユニークな語り口のまるぶんブログも人気。



参加書店をめぐる
スタンプリーも行われた

頭でのPOPづくりや案内など、すべて手作りだったというこのイベント。本好きな人、本に興味のある人がとても楽しんでくれ、「こういうイベントを待っていた」という声もあったようです。「来年5月には、また、スケールアップして開催したい」という荒川さん。書店同士のつながりもでき、継続して実施していく、という機運も高まっています。

参加して楽しむブックイベント「本熊本」。次の開催が楽しみなイベントです!

英語で観光客をおもてなし



NPO 法人ディスカバリーくまもと
ボランティアの会 Diskuma
理事長
野田 恭子さん



アフリカこどもの日ガイドの様子

「久しぶりに見た故郷の熊本城。その石垣の美しさ、雄大さに心打たれたことから、すべては始まったのです」と、熊本城や水前寺成趣園を訪れる外国人観光客を英語で案内しているNPOディスカバリーくまもとボランティアの会理事長の野田さんは語ります。野田さんは、27年間アメリカで過ごした後、帰熊。熊本の素晴らしさを世界に伝えたい!と強く思ったそうです。「外国の友人に話そうと思ったとき、自分が何も知らないということに気づきました。せっかく学ぶなら、専門家から学ぼう!と思ったのですが、一人ではもったいないので、講座にしよう。知り合いを募って、勉強することにしたんです」。学んだことを基に、英語でガイド用のテキストを作成。有志を募って英語でのボランティアガイドを始めました。この講座は、現在も続いています。「日本語でしっかりと歴史を学ぶことが何より大事だと思っています。講座の内容を毎年少しずつ変えて、歴史やガイドエリアの範囲を広げているんですよ」。

現在力を入れているのが、子どもを対象にした出前講座です。一新小学校などで、子どもたちが自分の「まち」のいいと

PROFILE

熊本市出身。熊本学園大学非常勤講師。東京で映画評論を行った後、渡米。ワシントンD.C.の一流ホテルでコンシェルジュ等に従事し、ワシントンエリアコンシェルジュ協会の副理事も務めた。平成15年に帰熊。平成18年、英語でのボランティアガイド団体を設立。平成24年NPO法人化し、現在はNPO法人ディスカバリーくまもとボランティアの会理事長。また、女性の地位向上を目指す団体「キャリアウェブ」の代表でもある。

ころを自分たちで探し、それを私たちが英語に訳したものを覚え、外国人にガイドすることを教えています。「子どもたちは英語を難しいと思っていますから、堂々と話すんです。自分たちが調べた内容を、とても楽しそうにガイドしてくれます」。

これらの活動が評価され、平成25年5月、熊本県から「くまもと観光賞・観光大賞」を受賞しました。「これから、韓国語や中国語など、マルチリンガルなガイド団体を目指したいと思っています。また、楽しくガイドできる『エンターティナー性』も重要。それには日頃の英会話力アップとガイドの質の向上が必須です。熊本の魅力が世界に広まり「楽しませってくれるガイドがいるまち」として知られる日も遠くはないでしょう。

まちば
もりあげ
隊

校区を越えて、いろいろな取り組みで「まちを元気にしよう!」とする元気な人たちが、中央区にはたくさんいます。ユニークなアイデアで、まちを盛り上げている人々をご紹介します!